



## 創立60周年記念式典 校長式辞

校長 関 勝 志

創立60周年という記念すべき年を第14代校長として、教職員と生徒、保護者、地域の皆様と共に迎えられたことは大きな喜びであり、本校を築き上げてこられた、歴代の校長先生や教職員、市教育委員会、同窓会など、多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

本校は、昭和40年東京オリンピックの翌年に開校いたしました。玉川上水と雑木林、茶畑に囲まれた自然豊かな場所に小平市の中学校としては最初の鉄筋校舎が建設されました。以来、卒業生は12,825名を数え、各方面でご活躍されています。

門標「小平市立小平第四中学校」の文字は、日本人として初めてノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士に書いていただいたものです。「日輪は」で始まる荘厳な趣のある校歌は、蛙の詩人として有名な草野心平先生の作詞と渡辺浦人先生の作曲によってつくられました。どちらも、初代校長である保坂芳春先生の「生徒には第一級のものを与えたい」という強い思いにより実現したものです。その思いはいまも脈々と受け継がれています。

創立から今日までの60年間は、昭和から平成、令和へと時代が移り変わり、世の中も変化してきました。とりわけこの10年間は学校教育にとって大きな転換を迫られました。新型コロナウイルスの感染拡大は、世界を揺るがし、多くの尊い命が奪われました。そして、臨時休校はこれまで誰も経験したことのない衝撃的な出来事でした。学校が再開しても、学校行事や部活動は中止しました。そして何よりも、友達との会話や触れ合いがなくなり、学校が無機質な空間となりました。一瞬、生徒たちから笑顔が消えたように思いました。しかし、そんな中でも生徒たちは、明るく、謙虚でした。多くの制限がある中、できることに全力を尽くし、頑張っていました。そんな生徒たちの姿を見ていて、私たち教職員も、生徒の健康と安全を守るため、楽しく充実した学校生活を復活させるため、そして笑顔を取り戻すため、できることは何でもやる、という覚悟で試行錯誤した毎日でした。

居場所づくりや学び直しのためにカルガモ教室が誕生したのもその頃です。本校では、例年、春から夏にかけて、校庭の池でカルガモの雛が生まれ、数日後にはお母さんと一緒に校庭を歩いて玉川上水にお引越します。その姿は愛らしいだけでなく、溝に落ちてても、階段があっても、決して諦めず、自立に向かって歩む姿は、心から応援したくなります。カルガモは小平四中の大切な仲間であり、地域の方々からも愛されています。

予測困難といわれるこの時代に新たな一歩を踏み出すため、学校教育目標を改定するとともに、コミュニティ・スクールとしてスタートしました。

「正しく学び、自他を尊重し、たくましく生きる力を育み、ふるさとと共に歩む」

この目標には、教職員と生徒はもとより、保護者や地域の方々の思いが込められています。

選挙権や成年年齢が18歳に引き下げられ、若者の自立を促し、自己決定を求める社会へと転換してきています。また、こども基本法の施行により、全てのこどもが将来にわたって幸せな生活を送ることができ、こどもの意見が反映される社会の実現が推進されています。次世代を担うこどもたち(君たち四中生)への期待が高まっており、学校教育がその大切な役割を担っています。

本校では、生徒の主体的な学びを推進するとともに、運動会や合唱コンクール、校外学習など、学校行事において、教員に頼らず生徒の力で創り上げることを大切にしています。たとえ失敗することはあっても、生徒たちはとても輝いています。ダンス部は創部二年目ですが、そのきっかけは、入学したばかりの1年生がダンス部設立の企画書を持って校長室を訪れたことから始まっています。生徒会活動においても、



生徒たちは豊かな感性と創造力を発揮し、新しい活動を数多く生み出しました。小学生との合同あいさつウィークもその一つです。これからも気持ちのいい挨拶が四中校区にあふれることを期待しています。

創立 60 周年を機に、生徒たちに郷土愛や愛校心、思いやりの心が育まれることを願い、学びの場をつくりました。「小平の歴史を学ぶ」講演会、「郷土愛」をテーマとした道徳授業地区公開講座、「言葉の力を学ぼう」講演会、卒業生座談会を通して、多くの皆様にご教示いただき、ありがとうございました。

校庭には、記念樹として赤松を植樹していただきました。赤松には「勇敢」「気高さ」といった意味があり、生命力が強い木です。赤松と共に四中生がたくましく成長し、小平四中が発展していくことを願っています。

結びに、この創立 60 周年の取組を通して、地域を知り、地域と深く繋がることができたことは財産です。これからどんな苦難に直面したとしても、絶対に力になってくれる地域であると確信しています。小平四中は「心のふるさと」です。これまで本校を支えていただきました多くの皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

## ■創立 60 周年記念式典 生徒代表の言葉■

3年B組 寺島 瑠奈

晩秋の澄みきった空気の中、木々の葉が色づき、玉川上水を流れる水音がどこか物静かに感じられる季節となりました。このような佳き日に、小平四中の 60 周年という節目を、550 名の生徒と先生方、保護者の方々、ご来賓の皆様と共に迎えられることを心よりうれしく思います。

小平四中では玉川上水の豊かな自然や地域の方と共にそれぞれの強みを生かした活動をしています。学校生活での四中生は部活動や行事、実行委員会など、様々な経験を通して学んだことを、授業や私生活、学級活動へと自然に生かすことができます。どうすれば学級活動がより良く行えるかを考え議論したり、行事の際には場を盛り上げつつ真剣に取り組めるよう気を引き締めたりと、楽しみながら成長できる雰囲気を作り上げる力を持っています。そして、そこで得た力を仲間のために発揮できる生徒ばかりです。

私たちは、地域の方々に支えられて学校生活を送ることができています。今度は自分たちの力で地域に恩返ししたいという気持ちから、玉川上水沿いの落ち葉掃き、校区内の小学校で行われる青少対まつりでのボランティアや、地域のおまつりでの部活動によるパフォーマンスなどを行っています。これらの活動を通して、この小平市を今よりももっと生き生きとした、笑顔溢れる地域にしていきたいです。

この四中が小平市にあるからこそ、私たちは自然に囲まれた伸び伸びとした生活を送れています。また、小平市に四中があるからこそ、笑顔や挨拶が絶えない、より良い地域になっていく、そんな関係でいられることを願っています。

玉川上水の穏やかな流れのように、この学校には静かで確かな優しさが息づいていて、それが 60 年間、大切に受け継がれてきました。私たちもまた、その流れの中で自分を磨き、誰かの力になれる存在をめざして、これからも成長していきたいと思えます。

最後に、たくさんの方々のおかげによって、日々充実した学校生活を送れることに感謝し、生徒代表の言葉とさせていただきます。

## ■創立 60 周年祝賀会■

記念式典では、厳粛で清新な雰囲気に包まれる中、生徒たちの合唱「ふるさと」と「校歌」が体育館に響き渡り、優しく温かな空気が広がりました。

祝賀会では、オープニングセレモニーとして、ダンス部と吹奏楽部の生徒たちが、素晴らしいパフォーマンスを披露してくれました。PTA 会長の若林さんの言葉で開会し、実行委員長長の今村さんの挨拶に続いて、四中で 20 年教鞭をとられた山田先生の音頭で乾杯しました。歓談中は、クイズ大会や先生たちのメッセージビデオもあり、とても和やかな雰囲気で、楽しむことができました。そして最後に、会場の皆さんで「ふるさと」を歌いました。



## ■ 🌱 年末年始の豆知識 🌱 ■

副校長 池上 大輔

令和7年も残すところ一か月を切り、「どんな一年だったかな」なんて振り返る時期になりました。この年末にちなんで、年末年始の豆知識を載せたいと思います。知っているものはいくつあるでしょうか。

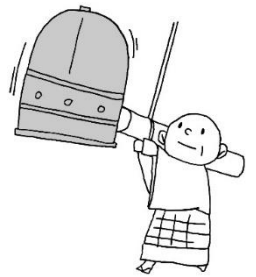
12月の「師走（しわす、しはす）」の「師」は、僧侶、お坊さんのことを表しています。年末年始には、ご先祖様の供養や法要で、お坊さんも繁忙期。僧侶やお坊さんのようにいつも落ち着いている人でも、12月は「走」り回るほど忙しい月だということで、「師走」と呼ばれるそうです。ちなみに年末は皆忙しくて急いでしまうのでしょうか。交通事故が増えます。習い事の帰り道など十分に車に気を付けてください。

また、1月の睦月（むつき）は、新しい年を迎えて、親せきや家族みんなが集まり、仲「睦」まじくする「月」だからだそうです。お正月にみんなで仲睦まじく過ごす。その様子が月の名前となりました。素敵ですね。ぜひ、家族や親せきの方と良い時間を過ごしてください。

私は12月31日、毎年家で除夜の鐘をきいて（TVですが）、年越しそばを食べて、音楽番組を見て夜更かしして、まったりと過ごしています。12月31日を大晦日と呼んでいます。もともと旧暦では、毎月の最終日を「晦日（みそか）」と言い、1年で最も重要な12月の末日を「大晦日（おおみそか）」と呼びました。昔は、「みそか」は「三十日」と書いていたようで字のまま「30日」を表しています。

旧暦では、月の末日はほとんどが30日だったため、新暦に変わり、末日が31日の月があっても月の最終日は「晦日」、「大晦日」と呼ぶのが残ったようです。ちなみに、なぜ「晦（つごもり）」という字が使われているのかというと、「晦」には「月が隠れる」という意味があるからだそうです。そのため、毎月終わる日には「晦日」という漢字でこの言葉が使われるようになったんですね。

そして、大晦日の風物詩といえば「除夜の鐘」です。大晦日の夜から元日に向けて、お寺では108つ鐘をつきます。この鐘の音を聞くことによって、この1年の罪や煩惱を取り除き、清らかに新年を迎えることができると言われています。108回という微妙な回数の鐘の音を鳴らす理由は、欲望や怒り、悲しみなどの人間の煩惱が108つあるとされているからです。鐘を一回つくごとに煩惱が一つ消えていくとされています。他にも、仏教で人が生きているときに悩まされると考えられている「四苦八苦」から来たという説もあります。



$4 \times 9 = 36$ 、 $8 \times 9 = 72$ 、これを足すと108です。また、野球の公式球の縫い目の数も108。これも煩惱の数とルーツが関係しているのか、野球は深いな！と思いましたが無関係でした。表面の皮が剥がれにくく、切れにくい縫い目の数を追求した結果、昭和23年にアメリカで正式に決められ、日本のメーカーもそれにならない108になったようです。

年越しそばは、大晦日に食べることから「つごもりそば」や「三十日そば」とも呼ばれていて、そばのように長く生きられるようにという長寿の願いを込めたものや、そばは切れやすいという理由から前の年の悪縁や災厄を断ち切るといったゲン担ぎで食べられているそうです。そばを買い忘れたからコシのあるうどんを食べようなんてことは、あまり良くなさそうですね。しかし、ある地域では「年明けうどん」というのがあり、純白で清楚なうどんに“紅”（エビ、イクラ、梅干し、かまぼこ、明太子、紅しょうが、紅いあん餅など）を添えた、紅白のめでたいうどんを年の初めに食べ、その年の人々の幸せを願うものもあるそうです。

由来や意味を知ることによって、どうやって「大晦日」を過ごそうかと楽しみになりますか？ 大晦日は1年の節目となる大事な最後の日！ 除夜の鐘を聞いたり、年越しそばを食べたりなどしてご家族で有意義な時間をお過ごしください。

## 🌸 小学生お仕事体験からのエピソード 🌸

副校長 池上 大輔

今年も、近隣の小学校（四小・十小）の児童たちが四中にお仕事体験に来てくれました。仕事内容は事務さんのお仕事、スクールサポートスタッフのお仕事、教室の先生のお仕事の見学と、先生インタビューでした。

本当はお店に行きたかったのかな？という児童も、とても一生懸命お仕事してくれました。先生の仕事の様子を見学に行こうと教室をいくつか回ったところ、ある3年生の教室に入ると、今何をやっているのか生徒が丁寧に説明してくれました。教室を出ると小学生がとても感激していました。中学3年生はすごく大人に見えたそうです。私も、小学生に自然に優しく接する四中生を見て、嬉しい気持ちになりました。他にもいくつかの教室を回りましたが、どの教室も突然の訪問にもかかわらず、笑顔で迎えてくれました。四中生の自然な優しさにとっても感心しました。

## ■人権週間「ちがいを尊重する」■ 校長 関 勝志

12月4日（木）から10日（水）までの一週間は、法務省が主催する第77回人権週間です。全国各地で様々な人権啓発イベントが開催されます。12月10日は国連で世界人権宣言が採択された日であり、世界人権デーと定められています。第2次世界大戦が終わると、悲劇を繰り返してはならないとの反省から国連が設立されました。そこで、各国の代表者たちは、人権侵害を放置することが虐殺や戦争につながったことを認め、世界の平和を実現するためには、各国が協力して人権を守る努力をしなければならぬということが、世界人権宣言によって明らかに示されました。



いじめや虐待、性被害等のこどもの人権問題、インターネット上の人権侵害、障害のある人や外国人、性的マイノリティ等に対する不当な差別や偏見、部落差別（同和問題）、ハンセン病問題といった多様な人権問題を解決するには、一人一人が互いの人権を尊重し合うことが不可欠です。

人権問題は本校においても絶対に解決しなければならない重要な問題です。生徒の日常会話の中で、他の生徒の外見や特徴、行動等を揶揄する差別的な言葉が使われています。全学級で一斉に指導を行いました。個別の指導も継続して行っています。また、教職員の人権意識や人権教育に係る研修も行いました。

ちょっと変わった動きや反応、失敗などをすると、それを馬鹿にするように「障がい者」や「ADHD」などと言う生徒がいます。それは、相手の人権を侵害するだけでなく、障害を抱えながらもたくましく生きているすべての人たちの人権を侵害するものです。また、「ADHD」は発達上の特性ですが、実際には診断名がつかつかないかだけであって、多くの人が様々な特性をもっています。その人の特性は、もって生まれたものもあれば、生育環境や人間関係によってつくられたもの、努力によって獲得したものもあります。

この世に一人として同じ人はいません。ちがうのは当たり前のことです。他者の「ちがいは」「まちがいは」ではありません。それを、あたかも自分が正しく、自分とちがう他者を間違っている（おかしい）かのような考えをもつことが、差別意識やアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み・偏見）につながります。

互いのちがいを認め、尊重することが大切です。そして、自分とちがう他者の気持ちを考えられる、思いやりの心があれば、きっとこの問題は解決できるはずです。全ての生徒が安心して生活することができる、誰一人取り残されない学校であるために、全教職員が一丸となって人権問題の解決に全力を尽くします。

この人権週間を活用し、ご家庭においても「人権」について考える時間をつくってほしいと思います。

## ■生徒の活躍■

◇卓球部◇ 令和6年度 小平秋季市民大会 中学女子団体戦 第3位 小平四中 A チーム

◇ラグビー◇ 東京都中学校秋季ラグビーフットボール大会

U14の部 準優勝 多摩大連合（2B 作野和福、2B 畑中秀斗、2C 脇山航司）

◇バドミントン◇ 東京都中学校第8・10・11ブロックバドミントン新人大会

男子ダブルス 第1位 2D 中村知優（はびねすまいる東大和）

◇ダンス◇ UDO JAPAN2025 日本予選

BATTLE1on1 POP 1位 / DUO NOV 1位 2B 高橋琥牙

※世界大会及びアジア大会の日本代表に選出

◇税の標語◇ 東村山間税会 会長賞 2B 畑中秀斗 「消費税 みんなで回す この社会」

東村山法人会 会長賞 2E 太田郁音 「税金は 未来の誰かの ためになる」

◇税についての作文◇ 小平市長賞 3A 奈良唯里

東村山青色申告会 会長賞 3C 古川佐和子

## 【1月の主な行事予定】

～3日 学校閉鎖（12/29～）	15日 中央委員会	23日 職場体験発表会（2）
8日 始業式 安全指導	16日 避難訓練	26日～27日 都立高校推薦入試
9日 給食始	19日 生徒会朝礼	29日～31日 スキー移動教室（1）
13日 専門委員会	21日 私立高校推薦入試	2月2日 1学年振替休業日（1）
15日 移動教室前検診（1）	22日 CS学校経営協議会	

## ■ 創立 60 周年記念講演『言葉の力を学ぼう』 ■ ～生徒感想文～

講師のひきたよしあきさんは、コミュニケーション・コンサルタントやスピーチライター、コラムニストなど幅広くお仕事をされています。「言葉の力を学ぼう」というテーマでお話いただき、言葉のもつ力や、言葉を通して気持ちを伝えるスキルについて知ることができました。ポジティブな言葉をたくさん使っていると脳は良いイメージの情報を集めようと働きます。親が子どもにネガティブなレッテルを貼る言葉を使うと、子どもの脳の働きに悪影響があるそうです。保護者の皆さん、気をつけてください。講演の最後に、生徒たちがペアを組んで褒め合いました。褒められたら「ありがとうございます」と言って交代します。たった1分間でも、みんな笑顔になりました。



### 【1年生】

私は自分に対してネガティブなところがあるので、質問の応答として答えていただいていた、ネガティブに考えるくせがついているというので、生活の中でも自信がつくようなことを考えていきたいと思った。

正直自分は自分の悪いところを心のなかですっと言っていて、最近なんていいところ浮かばないんだろって悩んでたので、今回の講演会で謎が解けて良かったです。最後に相手のいいところを言い合っただけで、そういう機会とかが増えるといいのかなと思いました。これからは心のなかですっと言葉をポジティブなことを考えようと思います。

言葉は薬にも毒にもなると聞いてとても印象に残りました。あ行でありがとう、いいね、うまい、えらい、おかげさまを普段の生活でも取り入れて話していきたいと思いました。

言葉の使い方によっては人を傷つけてしまうこともあると思うので使い方には気をつけたいです。相手を元気づけられるような言葉を使いたい。

今まで言葉について深く考えずに会話をしていたが、今日の講演を通して自分の今までの会話を見直そうと思いました。今はLINEを使うことが多いから言葉を短くしすぎることもあるので、ちゃんと自分の言葉で会話することを心がけようと思いました！

「言葉は薬にも毒にもなる」、「ポポネポの法則」です。自分が何気なく励まそうとした言葉だったり、元気をだそうとして言った言葉が、相手にとっては「うれしい」と思う人もいれば、「悲しい」と思う人もいるということ。少し疑問に思ったのは、自分は励まそうとして言った言葉が相手にとっては嫌な気持ちになるなら、なんて言えばいいのかわからず不思議に思いました。

言葉が薬になり毒にもなるということを知りました。また、言葉が力を持つことを知りました。だから、これからの生活では、人に掛ける言葉を考えていきたいと思いました。

看護師さんに「へいき、へいき」と言われたら平気かと思えてきた、という話が印象に残りました。私の母もよく「大丈夫、大丈夫」といっているのでも、それも意味があったんだな、と実感しました。

言葉というのはよいことにも悪いことにもつながるということは前から知っていたけど、「あ行の力」「すの力」を初めて聞いて、改めてこういう言葉が言われると嬉しいとか、力が出るとか、言葉ってすごいんだなと思いました。

2:6:2の法則にとっても共感しました。どうしてもみんなに話を聞いてほしい、好かれないと思うけど、2の人達を考えるのではなく、無関心の6人の人達にどうやって関心を持ってもらうかを考えて行動しようと思いました。

私は今回の講演を受けて、言葉は偉大なものだと感じました。なぜなら、言葉は人に自分の本心をしっかり伝える事ができるからです。しかし、言葉には伝え方によって人を傷つけることもできる。そのため今後は、言葉の使い方をよく考えて、適切な言葉を使えるようにしていきたいです。

ポポネポの法則がとても印象に残りました。ひとつも力も印象に残りました。なくなった番組がまだやっていたら私も見ていたかったです。でも一番印象に残ったのは、「言葉は毒にも薬にもなる」ということです。だから私はこれから言葉に気をつけていきたいです。

「やば」の後に二言付けると会話が増えるということで、私もよく友達とかに「やば」というので、二言増やしてみようと思いました。

ポポネポの法則で「最初の2回は褒めて少し仲良くなったところで『こうしてほしいな』など意見を何となくいいその後にもう1度褒めるといい」ということを今日初めて知り、弟に「こうしてほしい」とゆうことがあったら、やってみようかなと思いました。

自分も喧嘩になると相手の悪いところばかり探してしまうので、気をつけようと思いました。

言葉には「あ行」の力とか「す」の力、ポポネポの法則など、いろいろな人のモチベーションを上げたり、自分の印象を良くしたりできる法則などが色々あることが知れた。他にも言葉で与える影響があることがわかった。例えばご飯を食べていてもゲームをしていても友達と喋っていても、すべてを「やばい」で済ませちゃう原因が、スマホとかでスタンプなどを送って楽しんでいるからなど面白い情報がたくさん聞けて、これからの学校生活、それから社会に出てからのことを考えて活かしていきたいです。

これからは「う」の音を意識して喋りたいと思いました。相手のことを考えて言葉を使っていこうと思ひ毒にならないようにしたい。

### 【2年生】

自分は〇〇だと決めつけがちでネガティブ思考になりがちだったけど、自分にはこんな一面があるけどそれと正反対の一面を持っているんだとか、他の人から言われたことをネガティブにそのまま受け取るだけでなくポジティブに自分の中で変換することで、これからの生活が少しでもポジティブ思考に変換することが定着すると感じました。とてもいい機会になりました。

人は「やばい」だけで通じてしまうため、そこに詳しいやばい理由を二文つけたすと、賛成意見などが言えることがわかった、病は気からというように、平気と自分で行っていけば自分は平気と思えるように、言葉には大きな力があると思った。

ずっと「どうせ」という言葉が嫌いな理由がわからなかったが、この講演を聞いて自分を相手に決めつけられるからだとわかった。ネガティブな言葉は相手にも自分の心にも残るから、思ったことを「キモい」などの言葉で包めるのではなく、どう嫌なのかどう変えてほしいのか具体性を持たせてマイルドにして伝えることを意識したいと思う。

やばって言っちゃう事が多いので、思ったことを詳しく伝えられるように意識して喋りたいと思いました。

やばいって言葉は言葉じゃなくて記号っておっしゃっていたけど、私はそうは思わなかった。やばいって言葉は世代が変わったら通じないのは当たり前だと思うし、私たちが小さい頃に流行語として話されていた言葉は私たちは知らないから、同じようなものだと思う。世代が違って通じる言葉はたくさんあるから、話す人によって言葉を変えられるように、いろんな人と話すことが大切だと感じた。

少し自分は自分のことに対してネガティブに考えてしまう時があったので、そこを自分で決めつけるのではなく、ポジティブ感情を持って過ごしていきたいと思いました。

褒め言葉のシャワーは自分だけではなく、相手もいい気持ちになると思った。また知ることのできないことを知ることができてよかった。

ポポネポの法則をつかうことで、直してほしいことがスッと相手が受け取りやすくなるというのを聞いて、相手に直してほしいところがあったら、2回ポジティブなことを言おうと思いました。

自分が発する言葉によって印象が変わったり、自分を変えることができるのを知って、実践してみようと思った。

言葉を使う前に決めつけると脳がそのことしか考えなくなるので、ネガティブな言葉よりもポジティブな言葉を使ったほうが良いと思いました。

褒め合いをすることで、どんどん相手の良いところを目を向けることができるようになっていったような気がした。私は言葉について関心があったが、日本語だけでこんなに魅力があるのだと再発見する良い機会になった。

自分は相手に嫌われることが怖くて、厳しいことを言わなければいけない立場のときにうまく厳しい言葉を言えないことが多かったので、今日の講演でポポネポの法則の話聞いてやってみたいと思いました。

### 【3年生】

反抗期のとき、親の言動が嫌になるのではなくて、声のトーンや口調の波長が合わなくて、ストレスを感じることに驚いた。

私は一日に20回くらい「やばい」を言っていると思うので、「やばい」を言うときはその後2つ付け足すようにしたいです。

言葉は使う場面によって、意味が変わり捉え方も変わると分かりました。人によって言葉の価値観は違うので、言葉の幅を広げ相手に合わせて言葉を変えるのが大事なんだなと思いました。

人間関係を良くするコツなどが講演の中にたくさんあって、これから生きていくうえでとても役に立つ講演会だったなと思った。

自分はあまり人と雑談をするのは得意ではないと思っていたけど、そういうレッテル貼りはやめようと思った。ひとこと力を身につけたい。

「ヤバい」だけじゃなくてその後2つくらい追加するだけでちゃんとした文を作れるのを知って、今後試してみようと思った。相手に対してネガティブなことを言うときにポポネポの法則を使うというのは、実際に使えそうだなと思った。

普段の私生活を、見直す必要があるかも、と思いました。

自分の考えが深まりました。話を聞いていて、ネガティブをポジティブにすることはとても大切だと感じましたが、過度なポジティブ、過度な言葉の使い方、考え方とどのように向き合うのか、どうすればちょうどよく言葉や、言葉を通して人と関わっていくのかを考えることは、大人になる前だからこそ、非常に重要だと感じました。

「う」の音階で言葉を発すると伝わりやすいというのが、新たな発想で面白いと思うとともに、実践してみたいなと感じた。ポポネポの法則を学んだので、生かしていきたいと思った。

## ■ 創立 60 周年記念イベント『卒業生座談会』 ■ ～生徒感想文～

世代の違う卒業生、浅井さん（2期）、菊島さん（27期）、加藤さん（40期）大場さん（52期）をお招きし、パネルディスカッションを行いました。

昔の四中や自分のこと、中学生の頃に抱いていた夢、今になって気付いたことなどについてお話しいただきました。在校生からも手を挙げてたくさんの質問がありました。それだけ興味や関心が大きかったのだと思います。最後に、昔を振り返って「60年ですいぶんまともになった」「中学時代は自分に影響力のある時間だった」という感想や、「自分の可能性を信じること」「一人でも仲の良い人をつくること」というメッセージをいただいた後、プロピアニスト加藤さんによるベートーヴェン「月光」の素晴らしい演奏で締めくくりました。ありがとうございました。

世代は違っても、先輩と後輩の関係なので親近感がわきます。



### 【1年生】

同じ中学校でも時代によって、中学校の過ごし方が違ったり、環境も違うのだと分かりました。最後に加藤さんがピアノを演奏してくださったとき、手が見えなかったのですが、低い音から高い音までとても早いテンポで弾いていて、とても印象的でした。

今の四中になる前には、四中はいろんな歴史を辿って今の学校になったんだな、と思いました。特に印象に残ったのは、部活動や行事の変化で、昔には、ハンドボール部や、バトミントン部があったことにとっても驚きました。

60年前はプールも体育館もなく、クラス数も少なかったということが印象に残っています。お仕事体験で学んだことから将来に生かしたということが、言葉だけでなく実在するんだなと思い、今の私の夢まで頑張りたいと思うことができました。

約60年前から約10年くらい前の年代の違う4人の方たちが、それぞれ当時の学校の風景などを教えてくれて、貴重な時間を過ごすことができました。特に、運動会の競技の違いに驚きました。騎馬戦や組体操があると知って、今とは違う学校生活に興味を持って聞くことができました。

お話を聞いて、姿を変えて四中はあるんだなと思いました。浅井さんの「壁はいくつでも立ち足はだかる」というのと、大場さんの「最終的にはなんとかなる」という言葉が印象に残っています。この言葉を聞いて、中学生になったばかりの自分と比べられて、勇気をもらうことができました。

1つの四中じゃなくて4つの四中を比べることによって、色々なことを学べることができました。

60年という長い歴史の中で、四中は様々な進化と変化を繰り返していることがわかりました。

60年前から8年前まで幅広い年代の方からお話を伺って、様々な時代の四中のことを知ることができました。中学校でできた友達は今でも仲が良い人が多いと聞いたので、友達を大切にしていきたいです。

印象に残ったことは運動会の話で、今も昔もムカデや大縄などをしていてあまり変わらないけど、昔は組体操などをやっていたということが印象に残りました。四中の歴史を知ることができたし、どんな学校だったのかを知れて良かったと思いました。

4人の卒業生のお話を聞いて、時代や四中の変化を分かりやすくまなぶことができ、とても興味深かったです。特に体育館の後ろの絵たちは、比較的親しみやすいものなので、30年も前からあるんだ！とびっくりしました。最後に加藤さんの演奏を聞いて、今までプロの方の演奏を聴いたことがなかったので、とても感動しました。

私は今回の講演会を通して、時代の変化というものをよく知りました。例えば、学校ができた当初は周りに林が広がっていたり、地球温暖化の影響で体育館にエアコンがあり涼しいが、昔は体育館のほう暑かったりなど。そのため、これからの社会では、今なりの方法でより面白い学校生活にできるように、話題作り、勉学に励みたいと思いました。

同じ世代の卒業生の話ではなく、違う世代の卒業生のお話を順番に聞いたことで、四中の歴史や変化を比較しながら聞くことができ、とても分かりやすかったです。特に浅井さんが卒業した2期ではプールや体育館が無かったと聞いてとても驚きました。ピアノの演奏もとても早くてすごかったです。今回の授業でより四中について知ることができて良かったです。

時代を越えて運動会の種目はリレーなどの走る系が残っていて、何年ものバトンが受け渡されているんだと思いました。

### 【2年生】

浅井さんの経験話の中に、何回も失敗したけど最後には成功したという経験談を聞いて、自分もあまりうまくいかないときやなにかに失敗したときでも、浅井さんの話を聞いて、一回失敗しても最後には成功して終われると信じて失敗を恐れずやっていきたいです。

60年の間で、教育の仕方や周りの風景など、とても変化したということを理解した。ピアノがとても迫力があってカッコよかった。また聞きたいと思った。

四中出身の人のなかにもすごい人がたくさんいること。四中は六十年間という長い年月をかけて変化し、進化して今の姿になったことがすごく深いことなんだなと思った。

六十年前の四中は今と全然違って、年齢別の四人の方のお話を聞くことで、歴史や、プールも体育館もなく周りはより自然豊かだった六十年前の四中から今の四中になった過程などを感じることができました。

今回、卒業生の方の話を聞いてみて、今まで知らなかった四中の授業や給食、運動会などの学校行事についての話を聞くことができたので、とても勉強になった。時代の移り変わりを感じて、変わることもあるけれど変わらないことが多くて、中学校生活の三年間は人生の中でもとても印象深く重要なことということを理解することができた。ピアニストの方の演奏を聞いて、将来自分たちもその先輩方のように周りから憧れられるような誇れるおとなになっていきたいなと感じた。

今では考えられない授業中の雰囲気やイベント、時代背景を知ることができました。創立当初の流行していたものや卒業生の助言など、その代によって大きく異なっていました。加藤さんの月光とても美しかったです。

昔は体罰があったんだなと改めて思った。昭和は厳しかったことは知ってたけど、叩かれたりチョークを投げられたり、今では想像できません。60年の間に学校の様子も教育の感じも違ったんだなと思った。部活がたくさんあって、うらやましいです。

四中の時代の変化を、実際に過ごしていた人からお話を聞くことができ、身近なこととして考えられてとても面白かった。

卒業生の四世代が集まり、昔の学校の話の聞いたことにとっても温かい気持ちになりました。時代は違っても同じ場所で過ごした思い出がつながっていることを感じ、学校という場の大切さを改めて実感しました。

### 【3年生】

4つの世代の話を聞いて、今ある体育館やプールが創立当時にはなかったと知って、比べるのは面白いと感じました。最後に聞いたピアノの演奏がとても素敵で、驚かされました。

卒業生の話を聞いて、時代によって運動会や校風などが変わっていたなと思いました。昔の四中があるから今の四中があるんだなと思った。

60年くらい前は、制服が学ランだったり給食がなかったりなど今と全く違く、40年前、30年前と進んでいくと今の四中に近づいているのが面白かった。他にもピアノの演奏では速く弾いていてすごかった。

今と昔が違うのはわかってはいたけど、体育館やプールが無かったということに驚いた。冷暖房は最近できたので、小学校のころは確かなかったので思い出すと暑かったり寒かったり寒暖差が大変だと思った。

年代の違う卒業生の方たちの話を聞き、時代が移り変わるにつれ、考え方や経験が違うことがよくわかったし、中学校のたった三年間という短い間でも印象に残るほどの大切な時期だとわかりました。

座談会を通して、失敗しても大丈夫だと皆さんおっしゃっていたのが特に印象に残っています。興味を持ったことに積極的にチャレンジすることを心がけていきたいと思いました。

60年前から今まで、四中も少しずつ変化していることが分かった。昔の学校では体罰やお弁当が日常であると聞いて驚いた。ピアノの演奏は息を呑むほど上手で印象に残った。

浅井さんが「今悩みがあっても最終的にはどうにかなる」とおっしゃっていたのが印象に残りました。第一志望に落ちたらどうしようと思っていたけど、ここで終わりじゃないなと思えました。大場さんが「とにかくがむしゃらに」とおっしゃっていたのも印象に残りました。こっちのほうが効率がいいんじゃないかとか、こんな事やっても意味がないんじゃないかとか、時間に追われているいろいろ考えてしまうことも多かったけど、とにかくやってみることが大切だなと思えました。自分もあの先輩方のように、また10年後、20年後、四中に戻ってきて生徒に感動を与えられるような人になりたいなと思いました。

世代が違っても校舎や環境は変わらないんだなと思った。中学生の友達が一番会う機会が多いと聞いて、今の友達を大切にしようと思った。ピアノがすごかった。

開校してすぐの四中と今では大きな違いがあると予想していましたが、意外と最近でも細かなところで違いがあって興味深かったです。自分たちは今のこの生活が当たり前のようになっていますが、それは少し年代が違うだけでも当たり前ではないとわかって、前の四中ももっと気になりますが、今のこの環境に改めて感謝したいと思いました。

卒業した時期が全く違う四人の方々に会えて、今の四中と全く違うところもあり、でも今と変わらないところもあって、面白いお話がたくさん聞けました。私は今年卒業するので、今からでは遅いかもしいけれど、なにか形に残るものを残していけたらいいなと思う。

創立60周年にあたり、多くの方々から大切なことを学ばせていただくことができました。ありがとうございました。  
生徒たちに郷土愛や愛校心、思いやりの心が育まれるとともに、校庭の赤松と共にたくましく成長していくことを願っています。

